令和元年度

学校法人昌賢学園

事 業 報 告 書

学校法人昌賢学園

群馬医療福祉大学大学院 群馬医療福祉大学 群馬医療福祉大学短期大学部 群馬社会福祉専門学校 群馬医療福祉大学附属認定子ども園鈴蘭幼稚園

I. 法人の概要

1. 法人の名称 学校法人 昌賢学園

2. 事務所の所在地 群馬県前橋市元総社町 152番地

3. 設置する学校

①群馬医療福祉大学大学院 社会福祉学研究科

②群馬医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科

③群馬医療福祉大学 看護学部 看護学科

④群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部・リハビリテーション学科

⑤群馬医療福祉大学 短期大学部 医療福祉学科

⑥群馬社会福祉専門学校 社会福祉専門課程

福祉保育学科 介護福祉専攻科

社会福祉士通信課程

⑦群馬医療福祉大学附属認定子ども園鈴蘭幼稚園

4. 学生・園児等の数

(令和2年4月1日)

<u>・ 丁工 圏ルサッ</u> 数		(13 14 2 1			
学部·学科名	入学定員	収容定員	学生·園児数		
群馬医療福祉大学大学院					
社会福祉学研究科	10名	20名	10名		
群馬医療福祉大学 社会福祉学部	90名				
社会福祉学科	編入40名	440名	291名		
群馬医療福祉大学 看護学部					
看護学科	80名	320名	359名		
群馬医療福祉大学・リハビリテーション学部	2018年より+10名				
リハビリテーション学科	70名	280名	277名		
群馬医療福祉大学短期大学部					
医療福祉学科	80名	160名	99名		
群馬社会福祉専門学校社会福祉専門課程					
福祉保育学科	50名	100名	46名		
介護福祉専攻科	80名	8 0名	11名		
社会福祉通信課程	200名	200名	106名		
精神保健通信課程	8 0 名	80名	28名		
別科(実務者研修「通学」	125名	125名	0名		
別科(実務者研修「通信」	250名	250名	98名		
群馬医療福祉大学附属認定子ども園					
鈴蘭幼稚園	9 5 名	95名	78名		

5. 役員

理 事 8人

監事 2人

評議員 19人

6. 教職員の状況

(年4月1日)

部門	人数	部門	人数
法人部門 (事務局長)	1名	短期大学部教員	11名
大学院教員	0名	兼任講師	36名
兼任講師	12名	事務職員	3名
大学教員 (社会福祉学部)	3 8 名	専門学校教員	1 3名
兼任講師	44名	兼任講師	21名
事務職員	23名	事務職員	7名
大学教員 (看護学部)	3 3 名	幼稚園教員	11名
兼任講師	5 7 名	兼任教員	3名
事務職員	7名	事務職員(運転手含む	2名
大学教員(リハビリテーション学部)	21名	合計 常勤教員	127名
兼任講師	15名	兼任教員	188名
事務職員	6名	事務職員	49名

・・・・・・・ 詳細は、次ページ 7. 財産目録

「 資 _ 産 の 部 」

8, 442, 387, 008円 6, 943, 066, 992円

I 基本財産

1. 土 地 1, 454, 230, 554円

- 2. 建物・構築物
- 2, 149, 656, 223円
- 3. 施設拡充引当特定預金 2, 950, 000, 000円
- 4. そ の 他
- 389, 180, 215円

Ⅱ 運用財産

1, 499, 320, 016円

- 1. 現金 · 預金
- 1, 457, 348, 935円
- 2. そ の 他
- 41, 971, 081円

<u>「 負 債</u> \mathcal{O} 部

453,672,046円

- 1. 引 当 金
- 27, 162, 500円
- 2. 前 受 金
- 342,021,858円
- 3. そ の 他
- 84, 487, 688円

===== 正 味 財 産 =====

7, 988, 714, 962円

事業報告書「教学部門」

事業報告

大学を取り巻く状況は、少子化やグローバル化の加速を含む環境変化、情報化技術の進展による影響など、年々、高度化、複雑化している。加えて中央教育審議会答申である「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」や定員管理の厳格化、高等教育無償化などに示されるように、私立大学を取り巻く環境は刻々と変化しており、それらへの対応が急務となっている。

このような状況のもと、群馬医療福祉大学・短期大学部では「教育」「研究」及び「社会貢献」等の活動を通して、社会の要請に応える医療福祉人材の養成に努めるとともに、地域文化の発展に寄与している。

2021年度には新たな教学展開として、医療技術学部を開設し、これまでの社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部医療福祉学科の教学展開を活かしながら、より高度に連携した教育・研究活動を実施すべく、臨床工学専攻、臨床検査専攻を設置する準備を進めている。

次に学生支援の充実を目的として、学生の正課及び正課外の諸活動における成果を管理・蓄積する仕組みを確立するために、e-ポートフォリオシステムの全学的な展開に向けてシステムを構築している。さらに、学修成果の可視化及び教育の質保証を測る仕組みとしてディプロマサプリメント(授業到達度レポート)の導入などを中心とした教育改革を進めている。

講義や実習、実験等が円滑かつ効果的に行えるよう、各教室の実験・実習機材や映像機器等、教育指導に使用する施設・機械について適切な維持管理を行う。また教員がアクティブ・ラーニングによる学生の主体性を引き出す授業展開を行うことができる水準に高める。各キャンパスにおいては学生の自主的・能動的な学びと相談の場(ラーニングコモンズ)等を整備することも事業の目標としたい。

コロナ渦において急速なIT化にも対応できるよう計画的に整備・更新を進め、遠隔授業体制の充実を図っている。

地域に開かれた学園として (幼稚園 専門学校 大学)

リカレント教育については、少子高齢社会を迎え地域の方々の医療や福祉、特に「健康」への意識が高まり、予防医学や予防介護といった知識・技術が求められており、地域連携センターではそのようなニーズに対応するため、本学園の持っている知的財産を地域へ還元することを目的とし、地域の方々が気軽に参加できるような講座を開講している。

大学では7年前から、前橋商工会議所・藤岡市が主催する「まちなかキャンパス」に参加し、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方が交流し、語らい、楽しめる学びの場を提供している。この「まちなかキャンパス」を通じて、地域の皆様をつなぐ架け橋として、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っている。

その他、近隣の公民館においては子育て支援講座、高齢者教室を定期的に開催したり、 教員が施設や学校に出向き講座を実施したりする出前講座も積極的に実施している。

さらに、今日の少子高齢社会において生ずる種々の問題に対して研究・調査及び情報提供を中心に地域の方々の相談事業にも対応している。

群馬社会福祉専門学校では社会人の学び直しニーズに対応するため、社会福祉士通信課程の設置や、資格取得講座、筆記試験対策講座等を開講している。E-Learning を使用し、受講生の学習進度に応じて、主体的に学べることに大変好評を得ている。

附属幼稚園では、鈴蘭幼児教育センターを設置し、子育て支援や育児相談等に応じている。地域貢献活動として元総社地区文化際や前橋まつりに参加し、秋には幼稚園バザーを行い地域の方々との交流を深めている。

このような活動を通して、開かれた学園として地域の方々が気軽に往き来できる学園づくりを進めている。

1. 教育の質的転換に向けた質保証の取組み

ポリシーの点検

本学ではディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの3つのポリシーを踏まえた適切性にかかる点検・評価のサイクルを確立するため、学外(高等学校教員や自治体等)及び学生からの意見を聴取する機会を設け、点検・改善を行っている。ディプロマ・ポリシーについては「教育の質保証」「学習成果の可視化」「学習者本位の教育の転換」など、大学教育改革の一連の動きに合わせてカリキュラム・ポリシーについては、現行のカリキュラムとの整合性の見直し、アドミッション・ポリシーについては、2021年度の大学入試改革に合わせ入学制度の変更などから、それぞれのポリシーについての見直し、適切な改正を行った。

アクティブ・ラーニング

教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、年数回のFD研修を実施し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入している。学びの技法の教育法を習得するFDワークショップの開催を通じて、学生の能動型アクティブ・ラーニングを促進する教育方法や教育評価法について研鑽を積んでいる。能動的学習(アクティブ・ラーニング)を取り入れた科目についてはその割合を可視化し、各学部とも50%以上を達成している。

FD研修

本年度の研修の重点的テーマとしてFD・SD委員会で検討をした結果、「学力の向上」に焦点を当てた内容を扱うこととし、そのメイン企画として、「学修成果の可視化」をテーマにした研修を夏期FD研修の第1回目として実施した。第2回目の冬期FDでは学生が在学中受講する授業の全体の流れがどのようになっているかを教員自信が理解することに焦点をおいた内容で実施した。





成績管理の厳格化

成績管理の厳格化に基づき GPA 運用規定を見直し、絶対評価と相対評価を用いた成績管理を実施している。これにより教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化が可能となった。基礎データの分析によりその効果を検証し、それぞれの課程における質保証の改善を図っている。GPA 制度の活用は成績優秀者の表彰制度や奨学金支給の基準のみならず、進級や卒業判定、退学勧告の基準としても用いられ、一定の基準を下回る学生は保護者同席のもと学部長面談を実施することを規定に明記した。

PBL学習

PBL 学習をより推進する活動として、自らが新たな問題点や課題を解決し、実習や進路決定または将来の仕事に直結するようなサービス・ラーニング科目をカリキュラムに反映させた。地域の身近な課題を見つけ、その解決にむけて調査・分析から解決策の提示までを行う。フィールドは大学近隣地域を始め、被災地や海外も含み授業で学んだ知識を活かし、プロジェクトの活動を実践する。こうした学外での活動体験から、学内で行われる授業などにフィードバックさせ、学生自身の学修を深化させる。また、地域社会等の中で様々な人々と関わりながらコミュニケーション能力、社会性、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的として実施するものである。

ディプロマ・サプリメント

卒業時までに学生が身に付けた成果を客観的に社会に提示する仕組みを構築することで、大学教育の質の保証を目指す。また、卒業時だけでなく各年次終了時にもプレ・ディプロマ・サプリメントを活用し、学修の習熟度を学生と教職員が共有し、主体的な学修と学修支援を強化することで、学生自らが学びの PDCA サイクルを実践する習慣を身に付け、自己理解と成長に導くことが可能だと考えられる。

ディプロマ・サプリメント及びプレ・ディプロマ・サプリメントでは、教育課程の DP に関連した評価に加えて、社会人基礎力を本学の教育方針である礼儀・挨拶、ボランティア、環境美化活動について設定した 12 の能力をレーダーチャートで示し、指標に対する能力の獲得状況を、学生自身や就職先等が客観的にわかりやすく認識できるようにするシステムを構築する。

私立大学総合改革支援事業 タイプ1 教育の質的転換 採択

2. 地域人材の獲得・育成に向けた新たな取組み

本学は前橋市と市内大学が協働するプラットホーム形成し「地域人材の獲得・育成」を テーマに産業界・教育界・行政が、地域の課題を共有し、各々の役割や立場を超えて、お 互いの強みや経営資源を持ち寄りながら地域の課題解決の取り組みを推進している。

「人生 100 年時代構想」に対応するため、リカレント教育の一環として多様な志望動機 や職業経験を持った志願者に対応するため、社会人向けの履修環境の改善や県内自治体等 からの受入れ環境の検討など、必要な取組みを展開している。

私立大学総合改革支援事業 プラットホーム型に採択

3. 国際化に関する取組み

本学の教育カリキュラムや教育環境について英語やその他の外国語を用いて一層の国際化を進め、国際的視野を持つ医療福祉人材の養成を目指し教育課程を編成した。また、国際交流センターを中心に、交流協定校との協力関係を活かした海外研修プログラムを実施した。

現在の海外協定校は7校である。

海外研修 研修期間 9月 訪問先 カナダ レジャイナ

2018年度より、英語圏であるカナダ・レジャイナ大学にて8月に11日間、短期留学研修を実施している。学生たちはESL (English as a second language) のクラスに所属し、英会話の講義や心理学、さらには専門分野である看護学、運動学、教育学の講義を受講することができる。レジャイナ大学は世界中から留学生を受け入れており、学生たちは様々な国の学生たちと自発的にコミュニケーションをとり、交流を深めることが可能となる。

フィリピン医療福祉研修研修期間 3月訪問先 フィリピン マニラ

グルーバル人材育成推進事業の一環として、フィリピン海外研修プログラムを毎年3月に8日間にわたり実施している。現地では提携大学の学生や施設に入所中の子どもたちとの交流を通じて、異国の文化や生活に触れ、楽しくかつ有意義な経験を得ることができる。医療施設の視察では、貧困層の人たちが無料で受診できる病院や産院、精神科国立センター、さらに、富裕層向けの高度な設備が整った私立病院等を見学し、フィリピンの医療事情を知ることができる。このプログラムは本学と協定校であるフィリピン・アレリア大学との共同開発プログラムである。なお、このプログラムは留学生支援プログラムタイプAに採択され実施している。

4. 学生確保に向けた取組み

2021年度大学入試改革により、本学で学ぶ意欲を持つ多様な生徒を多面的・総合的な入学者選抜で受け入れ、高等学校で培った⑦基礎的な知識及び技能、①これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力、⑤主体的に学習に取り組む態度(以下、「学力の3要素」)を更に育み、各学部の専門的な深い知識・技能を獲得させ、予測困難な社会で主体的に多様な人々と協力して仕事をしていける人材として社会へ輩出できる教育の確立を目指す。毎年の志願者数や入学者数の推移、志願者・入学者の状況(推移)、入学後の成績等の状況を検証し、やアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニ

ーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行うとともに、必要に応じて入 学定員の見直しを行う。さらに課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発 展させるとともに、初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、ア ドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。

学力以外の能力(思考力・判断力・表現力等)を重視する入試方法の工夫や給費奨学金制度の導入等により、留学生や社会人を含めた幅広く優秀な学生を受入れ、安定した定員充足を維持することに努めている。

高大連携事業の取組み 単位認定授業開講 8月

本学では、「地域に開かれた大学」を目指しており、その取り組みの一つとして地域の高等学校のとの連携教育活動を進めている。高校時代に本学が実施する高大連携授業科目を履修することにより、医療・福祉・子ども・教育に関する内容を理解することができ、進路選択に役立つこと、及び高校生活の充実、学習意欲の一層の向上に寄与することを目的として高校と連携して実施している。

なお、この高大連携授業により習得した単位は、本学に入学した場合は本学で修得した 単位として認定している。



5. 地域貢献に関する取組み

社会人の課題解決ニーズや学び直しニーズに応えるため、必要なときにいつでも学ぶことのできる体制を整備し、社会人のニーズに合致した公開講座や子育て支援者の養成講座の開催等をはじめ、資格取得にもつながる生涯学習支援やリカレント教育を積極的に行う。特にリカレント教育に関しては2040年に向けたグランドデザインの答申で示された通り、多様な志望動機や職業経験を持った志願者に対応するため、社会人向けの履修環境の改善や県内自治体等からの受入れ環境の検討など、必要な取組みを展開する。社会人にとって魅力あるプログラムかどうか履修証明プログラムの見直しや講座等の見直しを行う。

まちなかキャンパス 前橋商工会議所連携事業

群馬医療福祉大学は前橋商工会議所連携事業としてまちなかキャンパスを開催し、地域の方々を対象に、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っている。少子高齢社会を迎え、地域の方々の「健康」への意識が高まり、予防医学や予防介護といった知識・技術が求められている昨今、そのようなニーズに対応するため、本学の持っている知的財産を地域へ還元することを目的とし、地域の方々が気軽に参加できるような講座を開講している。

論語の学堂 講座開催

本事業は本学の歴史及び建学の精神に基づき、平成24年3月から開始した事業である。 本学の淵源は宝徳元年(1949)に遠祖長尾昌賢が学問所を開設したのに始まり、世々漢学の 教授を以て地域教育に貢献してきた。

古来、漢学と呼び習わされている学問の中心にあるのが四書・五経と総称される中国の古典であり、就中日本では古代より論語が重んじられてき。そして本学は論語の「仁」を建学の精神とし、学生へ全人教育を行っている。福祉は特に人と人との関係構築が重視される分野であり、人間関係を築く上で最も大事なのが他者を己の如く感じる心、要するにそれが「仁」である。福祉と論語は決して無関係ではない。この論語の精神は福祉のこころに繋がるものである。この精神、つまり「仁」を広く社会に還元するために、通年講座として開始している。

公開講座 10月~11月

本講座は、本学における教育・研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の福祉と医療の向上に資することを目的に実施している。大学院社会福祉学研究科、社会福祉学部、看護学部、リハビリテーション学部、短期大学部医療福祉学科等の教員が講師として、講座を開設している。





前橋市 東公民館家庭教育学級連携事業 もっと!すくすくおやこスクール

子育てについてのコツや困ったときの対処法について学ぶとともに、日ごろ思っている こと悩んでいることなどについての情報交換の場の提供や、相談活動に応じている。



前橋市 東公民館 高齢者教室 参加者

高齢者と地域のふれあいの輪を結び、お互い学びあうとともに、こころ豊かな生活(健康・仲間づくり等)づくりを目的に、地区内在住の概ね60歳以上の方を対象に実施している。健康増進と地区の交流や東地区老人クラブ連合会の事業(学習活動)として位置づけられており、本学の教員が講師として講座を担当している。





自治体や団体との連携と人的資源(マンパワー)の提供

本学はボランティアや環境美化活動を通じた教育を重視し、学生がこれら実践を通じて 主体性を発揮していけるような教育を展開している。特にボランティア活動は単位化し必 修科目としており、以下のような地域貢献を行ってきた。

・地域貢献活動への取組

前橋市

前橋まつり、前橋七夕まつり、前橋シティマラソン 前橋あそか会 あそかまつり、やる気の木プロジェクト学

前橋ヒルクライム、赤城大沼マラソン

藤岡市

藤岡市民活動フェスティバス、藤岡子どもフェスティバス 藤岡市民討議会、藤岡まつり、藤岡フェスタ 藤岡健康福祉祭、産学官連携藤岡まちづくりシンポジウム

群馬県 群馬県障害者スポーツ大会、リレーフォーライフジャパン、 おくたの元気隊、みやま養護学校





神流町 おくたの元気隊

おくたのげんき隊活動報告会

中山間地域と学生との交流事業である「おくたのげんき隊」の活動について、看護学部の学生 20 名が参加している。過疎化と高齢化が深刻な奥多野地域に、世代間交流を生み出すことを目的とし、学生たちは1年間、高齢者サロンや地域の行事に参加している。





本学が目指す地域密着型の実学教育として、地域と大学が協働して、地域の特性を活かしたまちづくり、コミュニティづくり、地域活性化を目指している。本学が所在する藤岡市は「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産のひとつである高山社跡が世界遺産に登録されており、本学ではこの世界遺産・高山社において藤岡市と連携し、本学学部の特色を活かした活動を展開し藤岡市の発展、地域活性化に協力している。

学生案内人として見学者をお出迎えし、駐車場のごみ広い等の活動を実施しているが、 看護学部生は学部の特色を活かし、健康チェック・血圧測定を行い、参加者の健康を気遣 いながら交流活動を行っている。

私立大学総合改革支援事業 タイプ3 地域社会への貢献 採択